

平成18年度主要行事予定一覧

開催期日	会議名等名	会場
7/20(木)～21(金)	第4回高専テクノフォーラム	ホテルニューオータニ(新潟県長岡市)
8/1(火)～12(土)	第40回全国高等専門学校体育大会	近畿地区
8/3(木)～4(金)	教員研究集会(プロジェクト研究集会)	ソフトピアジャパン(岐阜県大垣市)
8/23(水)～25(金)	新任教員研修会	国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)
8/24(木)～25(金)	教育教員研修会	財団法人海外職業訓練協会(千葉市)
8/28(月)～30(水)	クラス経営・生活指導研修	教育研修センター(茨城県つくば市)
10/7(土)～8(日)	全国高等専門学校第17回プログラミングコンテスト	茨城県高専(茨城ひたちなか市)
11/17(金)～18(土)	全国高等専門学校デザインコンペティション2006in都城	メインホテルナカムラ(宮城県都市)
11/26(日)	全国高等専門学校ロボットコンテスト全国大会	国技館(東京都)
1/23(火)～24(水)	第3回全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究集会	学士会館(東京都)

高専間教員交流制度の創設について

従前、国立高専に勤務する教員については、高専間等での人事交流がほとんど行われていませんでしたが、全国55の国立高専が一つの法人となったスケールメリットを生かして他の国立高専に一定期間(1年～3年程度)勤務した後に、派遣元の学校に戻ることができる「高専間教員交流制度」を創設し、平成18年4月より、41高専から42名の教員が27の高専に派遣されています。このことで、派遣された教員には、派遣先の高専や外から見た派遣元の高専の良さを感じてもらい、また、他の高専の教員との交流を深めることで教員の力量を高め、復帰後、派遣元高専の教育力の向上を図ってほしいと考えています。



一関工業高等専門学校
機械工学科講師

鬼頭 俊介
(豊田高専より派遣)

教員交流で豊田高専から一関高専に異動して3ヶ月程経ちました。高専によって、学校運営システム、学生の雰囲気などがかなり違うということを感じました。これは交流派遣者誰もが感じることもかもしれません。また、仕事から一歩離れば、異なる地域の文化にも触れることができ、仕事、私生活すべてが新鮮に感じられます。教員交流の意義をしっかりと認識し、1年という限られた時間の中で多くのことを学び、高専の発展に貢献できるよう頑張りたいと思います。



徳山工業高等専門学校
一般科目助教授

加田 謙一郎
(鶴岡高専より派遣)

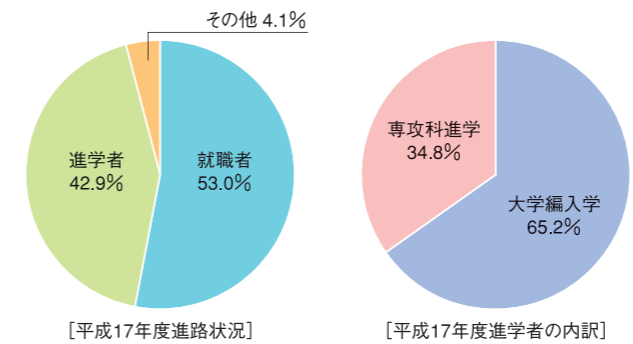
鶴岡高専から徳山高専へ異動しました。15年前、鶴岡高専に採用されて以来、他の地域・職場を全く知らずにいました。現在、徳山高専新人として、地域性の違いや授業・校務への取り組み方の違いに驚きながら、楽しい発見と適度な緊張感のある日々を送っています。過去の自分の仕事に対する姿勢がいかに硬直化していたのか思い知りもしました。新鮮な気持ちで仕事に向きあえる毎日を幸せに思っております。

平成17年度卒業生の進路状況

今春の卒業生の約53%は就職し、約43%が大学等に進学しました。

高専の卒業生は、実践的かつ創造的な技術者として産業界から高い評価を得ており、求人倍率も10倍以上を維持しています。就職率(就職希望者に占める就職者の割合)は毎年ほぼ100%となっています。特に技術者の世代交代が大きな課題となっている昨今、高専卒業生に対する期待は大きく今春は16倍強の求人がありました。

また、今春の進学者の約65%は国立大学工学部等の大学に編入学し、約35%が高専の専攻科に進学しています。



区分	14年度	15年度	16年度	17年度
卒業生数(人)	8,805	8,736	8,854	8,838
就職者数(人)	4,678	4,655	4,699	4,681
就職者の率(卒業生に占める就職者の割合)	53.1%	53.3%	53.1%	53.0%
就職率(就職希望者に占める就職者の割合)	96.5%	97.9%	97.7%	98.5%
求人倍率	10.0倍	10.7倍	12.6倍	16.3倍
進学者数(人)	3,588	3,557	3,742	3,789
進学者の率(卒業生に占める進学者の割合)	40.8%	40.7%	42.3%	42.9%

平成18年度入学者選抜の概要

今春、全国55校の国立高等専門学校において、新入生10,123人が、新しい学生生活のスタートを切りました。

平成18年度入学者選抜は、各校において、推薦による選抜が平成18年1月に、また、学力検査による選抜が平成18年2月19日(日)に全国統一の学力検査問題により行われました。

入学定員9,680人に対し、志願者数が18,050人、志願倍率1.86倍となり、前年度と比べ、志願者が若干減少したものの、比較的高い志願倍率を維持しています。

新入生の皆さん一人一人が、充実した学生生活を送り、一層飛躍されることを期待しています。

入学定員	9,680人	
志願者数 (志願倍率)	18,050人 (1.86倍)	
受験者数	17,583人	
合格者数	11,584人	
入学者数	10,123人	
推薦による選抜	志願者数	6,416人
	受験者数	6,412人
	合格内定者数	3,579人
	入学者数	3,578人
学力検査による選抜	志願者数 (うち推薦不合格者数)	14,438人 (2,804人)
	受験者数	14,016人
	合格者数	8,005人
	入学者数	6,545人

編集後記

機構発足3年目を向かえ、高専機構広報委員会では、特に「高専」の教育や研究の現状等を知っていただきたいと思い広報誌を企画しました。年2回の発行を目指し、今年度は、手始めということで関東信越地区にお願いすることとし、特に小山、木更津、東京の3高専の先生方を中心に編集していただきました。

原稿をお願いした皆様からは、予定を超える寄稿をいただき、当初の計画よりページ数が増えてしまいました。うれしい限りです。
(N)

高専機構広報委員会

- 河村 潤子
(高専機構理事)
- 木谷 勝
(釧路工業高等専門学校校長)
- 藤本 光宏
(小山工業高等専門学校校長)
- 天野 徹
(徳山工業高等専門学校校長)
- 江端 正直
(熊本電波工業高等専門学校校長)
- 前田 滋
(鹿児島工業高等専門学校校長)

編集委員会

- 津田 潔
(東京工業高等専門学校副校長)
- 小林 幸夫
(小山工業高等専門学校助教授)
- 岡本 保
(木更津工業高等専門学校助教授)
- 黒田 一寿
(東京工業高等専門学校助教授)
- 東京工業高等専門学校庶務課
- 国立高等専門学校機構企画課